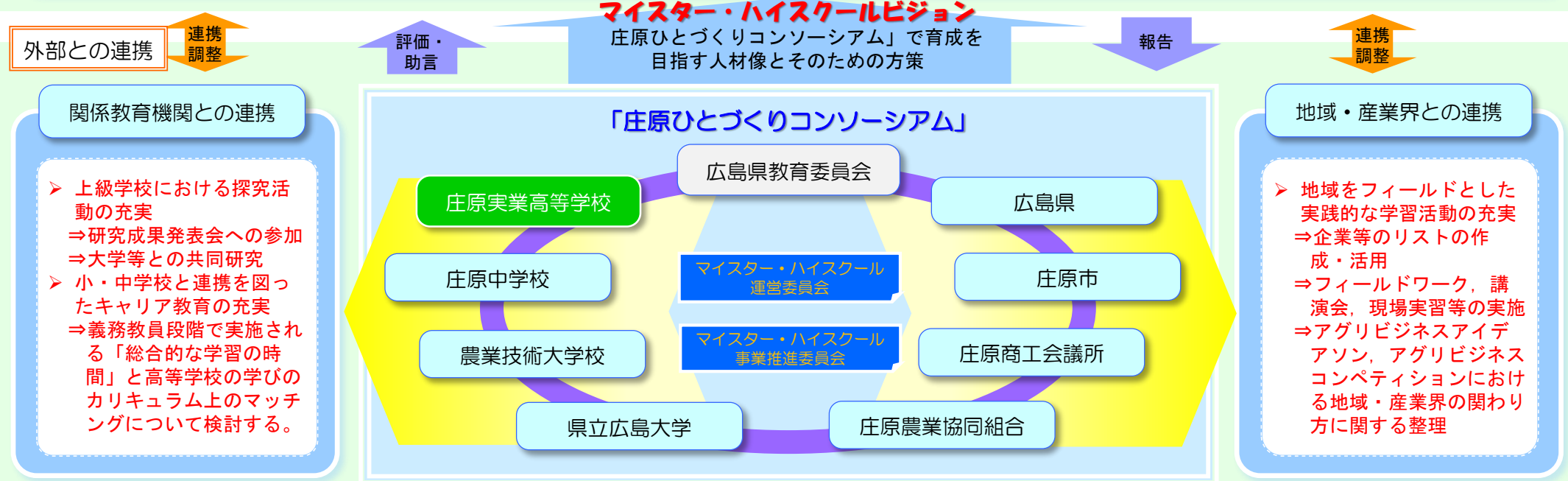
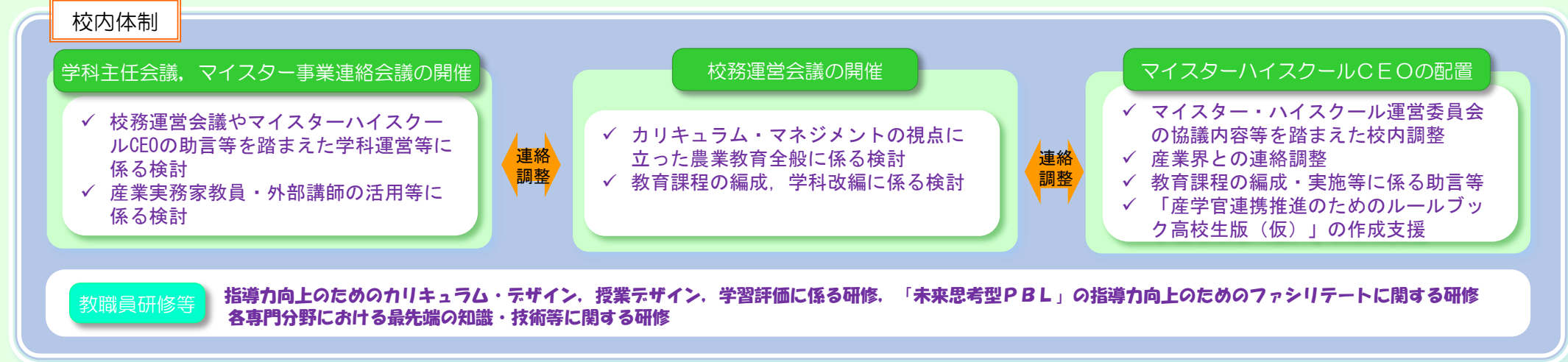


事業名 地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
 ～ Think Globally, Act from Shobara ～

教育課程 持続可能な社会・地域の創造を目指す産官学一体型の教育課程の編成・実施



事業名

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出

～ Think Globally, Act from Shobara ～

教育目標

- 《目指す生徒像》
- 生命体の育成を基盤とした学びを通じて、実社会で生き抜くための知識・技術をもった生徒
 - 広い視野で次世代社会に対応した課題を発見し解決することができる生徒
 - 協働した学びを通して、自己の未来をデザインできる生徒
- 《資質・能力》 専門的な知識や技術・課題解決能力・提案力・共創力・創造力・自己管理能力・人間関係形成能力

事業目標等

		項目	R3目標値
アウトカム	定性的評価	①キャリアノートにおける肯定的な変容が見られる生徒の記述内容	90%
		②「将来、県北地域の農業を成長させるためのアイデアがある」と回答した生徒の割合	-
		③「自分の力で未来を創ることができると思う」と回答した生徒の割合	-
	定量的評価	④FFJ検定上級取得者割合	40%
		⑤アグリマイスター顕彰プラチナ取得者数	4名以上
アウトプット	定性的評価	⑥産学官連携推進に係る外部との協議	3回以上
		⑦教育課程の刷新に係る外部との協議	3回以上
		⑧マスターブリックを意識したシラバスの改訂	3回以上
	定量的評価	⑨外部講師、産業実務家教育の活用時間数	100時間以上
		⑩教科等横断的な授業の学習指導案数	5案
		⑪外部機関との共同研究数	各学科1テーマ以上
		⑫推進会議の実施回数	3回
		⑬教職員研修実施回数	3回
		⑭講演会実施回数	2回

取組概要

カリキュラム開発

- 産学官一体型「学習プログラム」の開発と実践
- 各学習プログラムと関連する教科・科目等への位置付け、系統性の整理
- STEAM×PBLの実践に向けて「総合的な探究の時間」等の新設に関する検討
- アグリビジネスコンペティションの実施に向けた情報収集
- 各種教育活動と評価に関する整理
- マスターブリックの作成を通じた目指す生徒像の共有化

体制の構築

- 《内部環境の充実》
- 事業の推進に向けた校内体制の構築
 - マイスター・ハイスクール推進会議等の新設と実施
 - 「未来思考型PBL」担当者打ち合わせ会の実施
- 《外部環境の充実》
- マイスター・ハイスクールCEO、産業実務家教員、外部講師の活用
 - 共同研究・共同施設利用に向けた検討
 - SNSや地域における情報発信、学習成果披露の機会提供

成果・課題

R3実績値		成果と課題
①	検討中	<p>【成果】</p> <p>◆産学官一体型「学習プログラム」の実践により、農業が自分たちの身近なところに関わっていることを意識させることができ、事業の取組を自分事とすることができた。</p> <p>◆課題設定をする際には、生徒が地域の声に耳を傾け、地域の課題と自身のキャリアビジョンとを結びつけながら考えることができ、チーム内で協働しながら主体的に取組を進めていた。</p> <p>【課題】</p> <p>◆生徒が主体的に課題を発見し、リサーチする力を今後更に高めていくためには、授業を担当する教諭だけでなく、校内の教職員のファシリテーションスキル、コーチングスキルを向上していく必要がある。</p>
②	27.6%	
③	43.0%	
④	55.7%	
⑤	2名	
⑥	5回	<p>【成果】</p> <p>◆マイスター・ハイスクールCEOを中心として、地域の人的資源や地域の学習フィールドの活用に取り組んだ結果、外部講師による授業の実施時間数は目標値を大きく上回り、地域に開かれた学習環境の構築において一定の成果を挙げることができた。</p> <p>◆産業実務家教員の最先端機器を活用した授業を実施することで、生徒の農業に対する興味・関心を深めることができた。また、教職員とも協議を重ねることで、地域でのスマート農業の実情や農業団体の状態等の情報共有を図ることができ、教員の指導力向上にも繋がった。</p> <p>【課題】</p> <p>◆次年度以降は、産業実務家教員の指導時間数が増加するため、各授業の授業計画を学校内及び産業実務家教員と綿密に連携する必要がある。産業実務家教員が実施する授業の系統的な配置及び目標の整理が求められる。</p>
⑦	1回	
⑧	2回	
⑨	145時間	
⑩	11案	
⑪	9件	
⑫	18回	
⑬	5回	
⑭	1回	

カリキュラムの刷新

「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わらべきか。」という問いに対し、生徒は「10年後の庄原を支えるアグリビジネス」をプロジェクトの統一テーマとして「未来思考型PBL」に取り組んでいく。学習プログラムの開発と、地域の多様なリソースを活用することで、時代の変化に対応した資質・能力の育成を図る。

【1】産学官一体型「学習プログラム」（【未来思考型PBL】）の実施

※今年度は学習プログラムⅠ～Ⅳを実施した。次年度は学習プログラムⅥ・Ⅶの開発を進める。

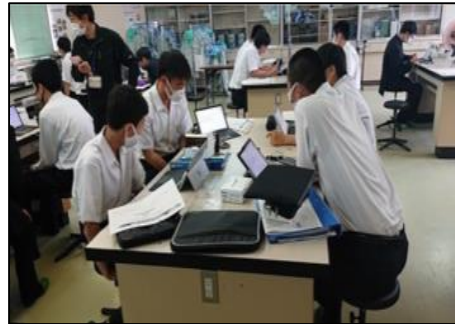
学習プログラムⅠ
キックオフミーティング

- これから始まるプロジェクトに対する興味・関心を高める。
- 自分達が未来を創る当事者であることの自覚を促す。



学習プログラムⅡ
グローバルデザインThinking

- デザイン思考により、自分と地域と世界を創造の世界で繋いで考えることができる。



学習プログラムⅢ
フィールドリサーチ

- 地域や社会のリアルな課題を発見することができる。
- リサーチ先・実習先と連携することができる。



学習プログラムⅣ
アグリビジネスアイデアソン

- 地域の課題を解決するために立てた研究仮説の妥当性について、外部講師の指摘を受けて考察することができる。



【2】マイスター・ハイスクールCEOの活躍

- アグリビジネスアイデアソンの実施に必要な外部講師を招致した。
- 「未来思考型PBL」にダイジェストで加わり、問いを通じて生徒の思考を深める役割を担った。



【3】産業実務家教員による授業



- 学校ほ場や、産業実務家教員のフィールドにて、園芸作物の生産に係る最先端の知識・技術指導を担った。
- 生徒も教職員も産業実務家教員が所有する、最先端の農業機械に触れることができ、これからの農業経営に対する新たな知見を得ることができた。
- 産業実務家教員による授業を受けて、2年生の早い段階から農業関連分野への進路を志す生徒が出てきた。

【4】その他の外聘講師による授業

- 今年度は39名の外部講師を招き、各分野や学科特性に応じた専門的な知識・技術に係る指導を受けた。

